

中學化學書第一編卷之下

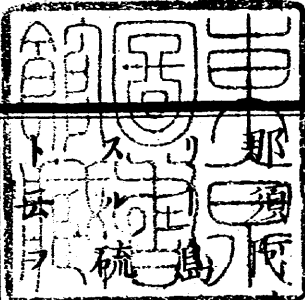
理學士 磯野徳三郎 編述

硫素 硫黄 符号 S 原子量 三二

所在 游離シテハ石膏及ヒ崖塩ニ伴フテ往々

現出シ又火山地方ニ多量ニ存在ス我邦ノ箱根

蘇淺間ノ如キ是ナリ歐洲ニ於テハシ、
ヲ以テ最大産地トナス即チ西人ノ使用
硫黄ノ過半ハ都テ此島ヨリ供給スルモノ
化合シテハ鉄銅及ヒ他ノ金属ト共ニ多



量ニ存在シ硫酸トナリテハ石灰及ヒ苦土ト化
合スルモノ甚タ多シ

採集方

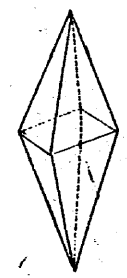
岩石土壤等ニ混合スル游離硫黄ヲ精
製セント欲セハ則チ之ヲ底ニ小孔ヲ穿チタル
坩堝ニ納メテ熱スレハ唯硫黄ノミ小孔ヨリ熔
出シテ岩石ハ坩堝中ニ残留ス又硫化鉄鑛
即チ黄鉄鑛ヲ熱スルモ硫黄ヲ得ヘシ以上ノ如ク
シテ得タルモノハ塊狀硫黄ナリ若シ硫黄花即
チ粉末硫黄ヲ得ント欲セハ硫黄ヲ餾罐ニテ蒸
餾シ其蒸氣ヲ大ナル冷室ニ到ラシムヘシ然ル

片ハ凝固シテ粉末トナルナリ

性質

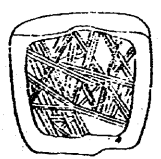
純硫素ハ淡黄色ノ脆キ固体ニシテ熱ス
レハ熔融シ空氣ナキ片ハ變化セスシテ蒸餾ス
硫黄ハ二様ノ晶形ヲ有ス一ハ斜方底八面体ニ
シテ自然ニ存在スルモノ及ヒ溶液中ヨリ結晶ス

圖九十三第



ルモノ是ナリ(例之ハ二硫化炭素ニ
硫黄ヲ溶解シタル液ヲ徐々蒸發

圖十四第



セシノテ生セル晶ノ如シ)一ハ前晶ト
毫モ關係ナキ長柱形ニシテ硫黄ヲ熔
融シテ半ハ之ヲ冷却シ表面ヲ破リ未

夕凝固セサルモノヲ流出セシメタル片器内ニ
結晶スルモノ是ナリ以上ノ二形ハ即先第三十
九圖及ヒ第四十圖ニ之ヲ示セリ○硫黄ノ比重
ハ其晶形異ルニ從ヒ異ナレリ八面体ハ二、○四
五ニシテ柱ハ一九八二ナリ○硫黄ハ百十一度
ニ於テ熔融シテ琥珀色ヲ呈シ水ノ如キ淡薄ナ
ル液トナル温度高上スルニ從ヒ次第ニ濃稠ト
ナリ其色亦深シ二百二十一度乃至二百四十九
度ニ於テハ其濃稠ナルヲ能ク之ヲ盛ルノ器ヲ
倒懸スルモ流出セシメサルヲ得ヘシ若シ今之

ヲ冷水中ニ注下センニハ恰モ樹膠ノ如キ柔軟
ニシテ彈性アルモノヲ生セン是レ即チ硫黄ノ
第三形ニシテ無形硫黄ト云フ然レモ少時間ヲ
經レハ再ヒ破碎シ易キ尋常ノ硫黄ニ復ス以上
ノ温度ヨリ其沸騰点迄ハ(約ソ四百度)硫黄再ヒ
淡薄ノ液トナル硫黄ノ蒸發氣ハ空氣ヨリ重キ
一二、二二倍水素ヨリ重キヲ三十二ナリ○硫黄
ハ水及ヒ酒精ニ溶解セス松根油及ヒ脂肪ハ之
ヲ溶解スト雖最良ノ溶藥ハ二硫化炭素ナリ○
其化學的性質ハ甚ク酸素ニ類似スルモノトス

(第二) 水銀或ハ銅屑ヲ硫酸ト共ニ熱スレハ
生ス



銅

硫酸銅



汞

硫酸汞

(第三) 硫黄ヲ強硫酸ト共ニ熱スレハ生ス
右三法中最モ普通ニ施行スルハ第二ナリ但シ
二酸化硫素ヲ集捕スルニハ下方交換法ヲ以テ
スヘシ第三法モ亦甚タ便利ナルモノトス

第一試

三脚架ニ鑲網ヲ置キ上ニ濕ヘル紅色
ノ花ヲ載セ其直下ニ硫黄ヲ燃キ玻璃鐘ヲ以テ
全装置ヲ覆ヒ放置スルヲ少頃ニ到レハ紅色
次第ニ消滅スルヲ見ルヘシ

第二試

二酸化硫黄ヲ充テタル玻璃罩ニ少許ノ
水ヲ注入シ手ヲ以テ能ク之ヲ密閉シ烈シク
振掉スレハ玻璃罩ノ密著スルヲ見ルヘシ

(此試験ノ理由ハ生徒自ラ考フヘシ)

第三試

第二試ニ得タル所ノ液少許ニ青色リ
トマス」液ヲ注加スレハ忽チ紅變ス

第四試

澱粉液數滴ヲ沃化鈎ノ溶液ニ注キ塩素水ヲ加ヘテ藍色トナシ更ニ第二試ニ得タル亜硫酸ヲ加フレハ則チ無色トナル以テ塩素ト亜硫酸ノ褪色性ハ全ク反對ナルヲ知ルヘシ夫レ亜硫酸ノ褪色スルヤ水中ノ酸素ヲ失フテ水素ヲ游離セシメ此發生機ノ水素色素中ノ酸素ト化合スルニアリ然レハ亜硫酸ノ褪色作用ハ脫酸法ニ属シ塩素ハ既ニ記シタルカ如ク酸化法ニ係ル故ニ其反對ナルヤ明ナリ

性質

二酸化硫素ハ無色ノ氣體ニシテ一種ノ刺戟臭ヲ有ス直ニ火焰ヲ消滅セシメテ更ニ呼吸スヘカラス比重ハ二、二一ナリ華氏ノ冷度ニ於テ液化ス其容量三十倍以上ノ冷水ニ溶解シテ酸性反應ヲ呈ス是レ即チ亜硫酸ナリ亜硫酸ハ空氣ニ觸ルレハ次第ニ酸化シテ硫酸トナル然レモ乾燥ナル亜酸化硫素ヲ酸素ト混合スルモ更ニ化合スルヲナシ亜硫酸ハ褪色性アリテ青色「リトマス」紙ヲ濕リタル氣中ニ投スレハ始メ紅變スト雖次第ニ其色消滅ス金屬ト化合シテ

亞硫酸塩類ヲ生ス即チ「アルカリ」金属ノ塩類ハ
溶性アル結晶ナリ

〔亞硫酸及ヒ亞硫酸塩類ノ鑑識法〕

〔第一〕 塩化銀ヲ加フレハ白色ノ亞硫酸銀ノ沈
ヲ生ス但シ塩化水素ニ溶解ス

〔第二〕 亞鉛ト硫酸トヲ加フレハ硫化水素ヲ放
出ス即チ鉛糖ヲ塗抹セル紙ヲ管口ニ輪セハ
黒變スルヲ以テ知ルヘシ

〔効用〕 亞硫酸ハ毛布及ヒ藁ヲ晒スニ用フ又化
學上ニテハ脱酸藥トシテ功アリ

三酸化硫素 一名酸化硫素 符号 SO_3

此化合物ヲ製スルニ數法アリ

〔一〕 亞酸化硫黄及ヒ酸素ノ乾燥ナル混合ヲ熱
灼セル海綿狀ノ白金上ニ通スレハ生ス

〔二〕 最濃ノ硫酸ヲ五酸化磷ト共ニ熱スレハ生
ス但シ五酸化磷硫酸中ノ水ヲ奪ヒ三酸化
硫ヲ游離セシムルナリ

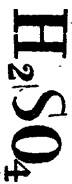
〔三〕 最モ普通ナル法ハ發烟硫酸ヲ文火上ニ熱
シ游離スル所ノ酸化物ヲ氷ト食塩トノ混
合物ニテ冷スレハ石絨狀ノ美麗ナル晶ヲ

得ヘシ

三酸化硫素ハ白色ノ晶ニシテ水トノ化合力甚
タ強シ水中ニ投スレハ塊紅ノ鉄ノ如キ聲ヲ發
ス空氣ニ曝露スレハ忽チ潮化ス

硫酸

符号

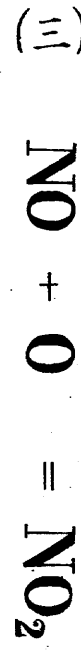
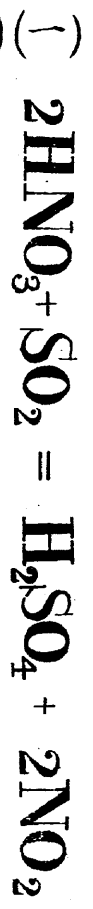


製法

硫酸ノ製法タルヤ則チ亜酸化硫素四酸
化窒素及ヒ水ノ三物混在スルキハ亜酸化硫素
四酸化窒素ノ助ニ依テ酸化シ四酸化窒素ハ其
酸素二分一ヲ失フテ二酸化物トナルノ化學的
反應ニ據レリ其方法尤ノ如シ

鉛板ヨリ製セラレタル長大ノ室ヲ木材ヲ以テ
支架シ其一方ニ於テ炉ヲ設ケ潤管アリ之ヲ鉛
室ト接続ス該炉ニハ断ヘス硫黄ヲ燒キ其焰ヲ
以テ硝石ト硫酸トノ混合物ヲ納メタル坩堝ヲ
熱ス室ノ底ニ少許ノ水ヲ注キ又水蒸氣ヲ室内
ニ噴入セシム室ノ一側ニ孔ヲ穿チ消費シタル
氣體ノ流出ニ備フ斯ノ如ク室内ニ断ヘス二酸
化硫素酸化窒素及ヒ水蒸氣ヲ充滿セシム乃チ
硝酸ハ直ニ其酸ノ一分ヲ二酸化硫素ニ分與シ
テ四酸化窒素トナル(第一式ノ如シ)此酸化物再

ヒ酸素ヲ失ヒ終ニ二酸化窒素ニ變ス(第二式)
二酸化窒素ハ更ニ空氣中ノ酸素ニ逢テ再ヒ四
酸化窒素ヲ生シ(第三式)他ノ二酸化硫黄ヲ酸化
セシメ第二第三式ヲ反復シテ際限アルコトナシ



然レハ四酸化窒素若干アレハ無量ノ硫酸ヲ製
出シ得ヘシト雖實際上ニテハ多少硝酸ノ消耗
ナキコト能ハサルナリ

硫酸次第ニ鉛室ノ底ニ集リ其ノ強度ニ至ルヲ
俟テ之ヲ取出シ始ノ鉛鍋ニ於テ水分ヲ蒸散セ
シノ後ニ白金製ノ餾罐ヲ以テ其比重約ソ一ハ
四トナル迄蒸發シテ濃厚ナラシム白金罐ノ代
リニ玻璃ヲ用フルコトアレ共玻璃損ノ患アリ
現今ニテハ硫酸ヲ用キスシテ黄鉄鑛或ハ銅ノ
粗鑛或ハ閉鑛ヨリニ酸化硫素ヲ製出ス蓋シ此
法ニ從ヘハ硫酸多少ノ砒素ヲ含有ス然レモ食
塩ト共ニ之ヲ熱シ或ハ塩化水素氣ヲ通過セシ
ムレハ容易ニ砒素ヲ驅逐セシノ得ヘシ

性質 硫酸ハ無色油狀ノ液体ニシテ一、八五ノ比重ヲ有シ劇烈ナル酸性ト酸性反應アリ零點以下二十六度ニ至リ氷結シ三百二十七度ニテ沸騰ス水トノ親和力甚ク強シ則チ空氣ヨリ水分ヲ吸收シ水ヲ加フレハ強熱ヲ發シ又有機物ヲ炭化セシム硫酸ノ蒸氣ヲ焔紅ノ白金上ニ通スレハ亜硫酸ト酸トニ分裂ス故ニ化學士此作用ヲ藉テ多量ノ酸素ヲ製出シ得ヘキヲ指示セリ金屬ト化合シテ重要ナル硫酸塩類ヲ生ス

硫酸及ヒ硫酸塩類ノ鑑識法

第一 塩化銀ヲ加フレハ白色ノ硫酸銀ヲ沈澱ス但シ酸類ニ溶解セス

第二 硫酸塩類ヲ木炭上ニ熱シ然ル後塩化水素ヲ注ケハ則チ硫化水素ヲ放出ス

功用 硫酸ハ化學上ハ勿論諸製造欠クヘカラサルノ要品ニシテ一國製造ノ盛衰ハ能ク硫酸ノ消耗高ヲ以テトスヘキ程ノモノナリ

重硫酸 符号 H_2SO_4

此酸ハ水一分子ト酸化硫素二分子ヨリ成ルモノニシテ或ハ燐烟硫酸及ヒ「ードホーセン」硫酸

ト呼フ元素「サクソシ」ノ「ノードホーセン」ニ於テ
 硫酸鉄ヲ乾餾シテ製出スルモノニシテ既ニ十
 五世紀以來使用セル所ナリ重硫酸ハ褐色ノ發
 烟液体ニシテ一、九ノ比重ヲ有シ零度ニ於テ無
 色ノ晶ヲ結ビ文火ヲ以テ酸化硫黄及ヒ硫酸ニ
 分解ス近来迄ハ唯藍靛ヲ溶解スルニノミ
 用キシカ現今ニテハ人造^{アサシン}茜素用ノ「アンストラク
 イノン」ヲ溶解スルニ大ニ消費スルモノトス
 次亜硫酸 符号 H_2SO_2
 此酸ハ亜硫酸ニ亜鉛ヲ加フレハ生スルモノニ

ニテ其脱酸性及ヒ褪色力ハ遙ニ亜硫酸ニ優レ
 リ其錯塩ハ藍ノ漆法ニ用フ

硫酸 旧名次亜硫酸 符号 H_2SO_3

硫黄ヲ亜硫酸錯或ハ鉄ノ溶液ニ浸シ置ケハ則
 チ其一部分溶解ス今之ヲ徐々蒸発スレハ硫々
 酸塩ヲ得ヘシ



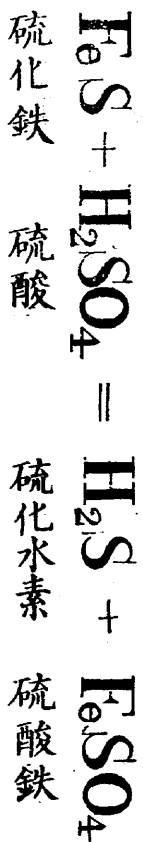
此塩類ニ對スルノ酸ナシ
 「アルカリ」金属ノ塩類ハ塩化銀ノ如キ銀塩ヲ溶
 解スル性アリ故ニ寫真法ニ肝要ナリ又物品ヲ

漂白シタル後消塩素藥ニモ用フ

硫素及ヒ水素ノ化合物

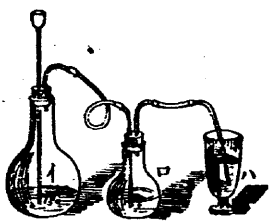
硫化水素(H_2S)ハ含硫有機物ノ腐敗スル片ニ發生シ又温泉ニ存在スルヲアリ之ヲ製スルニ二法アリ

(イ) 硫化鉄ニ稀硫酸ヲ注ケハ生ス

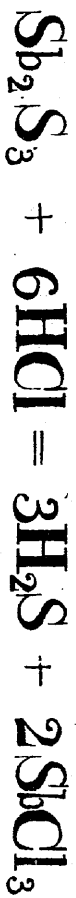


(ロ) 第一硫化鉍素ヲ塩化水素ト共ニ熱スレハ生ス

第一十四圖



第一法ハ最モ容易ナル法ニシテ先ツ硫化鉄ノ小塊數片ヲ壘イニ納メ漏斗管ヨリ硫酸ヲ加フレハ次第ニ硫化水素ヲ游離ス乃チ之ヲ壘内ニ導キ水ヲ以テ洗滌シ然ル後微温湯上ニテ集捕スヘシ蓋シ此氣ハ惡臭アルヲ以テ集捕セサル片ハ導管ヲ水ヲ盛レル盃中ニ没入シ置ヲ可トス(第四



第一硫化鉍 塩化水素 硫化水素 第一塩化鉍

十圖

第二法ニ從フモ其裝置前ニ異ナル所ナシト雖
熱ヲ加フルニアラサレハ硫化水素ヲ放出セス
故ニ時ニ依リ第一法ヨリ便利ナルトアリ

第一試

硫化水素ヲ充テタル玻罩ニ火ヲ点ス
レハ青色ノ焰ヲ發シテ燃燒ス

第二試

硫酸銅三酸化砒素臭化錒酒石酸銨（註）
第二塩化鉄及ヒ塩化銀ノ溶液各少許ヲ數箇
ノ試管ニ納メ各次ニ硫化水素液ヲ注加スレ
ハ銅ハ黑色、砒素及ヒ錒ハ黄色、銨ハ橙黄色ノ

沈澱ヲ生シ鉄ハ唯淡黄色ノ硫素ヲ分離シ銀
ハ毫モ變化スルコトナシ今硫化「アムモニユム」
ヲ以テ四箇ノ沈澱ヲ処スルニ銅及ヒ錒ハ變
化ナキモ砒素及ヒ銨素ハ溶解ス

第三試

青色リトマ「ス」ヲ加フレハ忽チ紅變ス
性質 無色ノ氣體ニシテ腐卵臭アリ空氣中ノ

存在スルコト少量ナルモ實ニ厭フヘキモノナリ
火ヲ点スレハ青色ノ焰ヲ發シテ燃燒シ水及ヒ
二酸化硫素ヲ生ス塩素ニ觸ルレハ忽チ分解シ
テ酸素ヲ分離ス其比重空氣ニ比スレハ一、一七

一水素ニ比スレハ一七ナリ十度ニ於テ十七氣厭ヲ加フレハ液化ス冷水ハ同容ノ硫化水素ヲ溶解シ酸性反應ヲ呈ス然シ時ヲ經レハ分解ス金屬ノ溶液ニ加フレハ著明ナル性状ヲ有スル沈澱ヲ生ス故ニ金屬ヲ鑑識シ及ヒ分離スルニ化學者須臾モ欠クヘカラサルモノナリ

鑑識法 (第一) 硫化水素氣ニ鉛糖紙ヲ曝露スレハ忽チ黒變ス是レ黑色ノ硫化鉛ヲ生スルニ因ル

第二 硫化物ニ酸類ヲ注ケハ大略皆硫化水素

ヲ發生ス

第三 「アルカリ」金屬ノ硫化物ニ硝青化鍮ヲ加フレハ美麗ナル紫色ヲ呈ス

硫素及ヒ炭素ノ化合物

二硫化炭素(CS_2)ハ硫黄ノ蒸氣ヲ焔紅ノ炭素上ニ通スレハ則チ生ス無色ノ液体ニシテ光線ヲ屈折スルノ性甚ク強シ其比重一、二七ニ蒸氣ノ比重ハ水素ニ比スレハ三十八ナリ四十三度ニ於テ沸騰ス通狀ニテハ實ニ嫌フヘキノ臭氣ヲ有ス蓋シ他ノ揮發性硫素化合物ノ混在スルニ

由ルナルヘシ然レモ水銀ト共ニ振罩シ其表面
 黒變セサルニ至レハ純粹ナル「イーサル」臭ヲ有
 スト云フ空氣中ニテハ青色ノ焰ヲ發シテ燃燒レ
 ニ酸化硫黃ト炭酸氣トヲ生ス能ク硫黃燐沃素
 樟腦及ヒ樹膠ヲ溶解シ油類ト自在ニ混淆ス樹
 膠ヲ硫化シ「ガッタバルカ」ヲ製シ種子ヨリ油ヲ採
 集スルニ功アリ
 他ニ一酸化硫素(CS)及ヒ酸化硫炭素(COS)等
 ノ化合物アレモ之ヲ略ス

硼素 符号 B 原子量 一一

製法及ヒ性質

ニ熱スレハ生ス

硼素ト鈇ノ複弗化物ヲ鈇ト共



弗化鈇硼素 鈇 弗化鈇 硼素

綠褐色ノ粉末ニシテ之ヲ熱スレハ酸化硼素ヲ
 生シ又水ニ溶解ス然レモ之ヲ白熱セル後ハ黒
 變シテ熱スルモ酸化シ或ハ熔融セス又水ニ溶
 解スルナシ化學者曾テ炭素ノ石墨及ヒ金剛
 石ニ對スル石墨狀及ヒ八面体ノ硼素アリト信
 セシカ皆硼素ト鈇トノ化合物ナルヲ發見セ

リ
酸化硼素及ヒ硼酸 硼素ハ唯一箇ノ酸化物ヲ
作ル則チ硼素二十二分ト酸素四十八分ヨリ成
ルモノニシテ B_2O_3 ノ符号ヲ有セリ此酸化物ハ
水及ヒ金属ノ酸化物ト化合シテ硼酸及ヒ硼酸
塩類ヲ生ス

硼酸 ($3H_2O \cdot B_2O_3$ 或ハ H_3BO_3) ハ「タスカニー」ノ火
山地方ノ鑛泉中ニ存在スルモノニシテ土人之
ヨリ採收シ大ニ世人ノ用ニ供ス又印度「チベット」
及ヒ他ノ亞細亞地方ノ塩湖ニ多量ニ存在スル

硼砂ノ溶液ヲ硫酸ニテ分解スルモ容易ニ製出
シ得ヘシ

硼酸ハ無色片状ノ晶ニシテ二十五分ノ冷水ニ
溶解シ熱湯中ニハ溶解スルヲ却テ少シ酸味甚
ク薄弱ニシテ「リトマス」上ノ反應著明ナラス熱
スレハ熔融シテ水ヲ失ヒ酸化硼素ヲ生ス能ク
金属ノ酸化物ヲ吸收ス故ニ硼酸塩類即チ硼砂
ノ如キハ金属ヲ鑑識シ或ハ金属ヲ接續スルニ要
用ナリ酒精ニ溶解シ之ニ火ヲ点スレハ綠焰ヲ
發ス酸化硼素ハ強烈ノ熱ヲ要スト雖硼酸ハ蒸

発シ易シ即チ水溶液ヲ蒸発スレハ重量著ルシク減少スルヲ以テ知ルヘシ

硼酸及ヒ硼酸塩類ノ鑑識法 (第一) 塩化銀ヲ加

フレハ白色ノ硼酸銀ヲ沈澱ス但シ酸類ニ溶

解ス

(第二) 硫酸二三滴ト酒精若干ヲ加ヘ火ヲ点スレ

ハ緑焰ヲ発ス蓋シ焰刃ニ於テ分明ナリ

(第三) 塩化水素數滴ヲ加ヘ之ニテ黄薑紙ヲ濕シ

徐々乾燥スレハ褐色ニ變ス但シ「アムモニヤ」

ニ逢ヘハ黒變ス

第四 螢石及ヒ硫酸鈦水素ト共ニ白金線頭ニ熔

融スレハ焰ニ綠色ヲ分與ス是レ弗化硼素ヲ

B_2O_3 游離スルニ由ル

硅素 符号 Si 原子量 二八

所在 硅素ハ天然ニ游離シテ存在スルモノナ

シト雖酸素及ヒ金属ト化合シテハ地球ヲ組成

スル夥多ノ礦物及ヒ岩石ノ成分ヲナス則チ酸

素ニ次テ最多ナルモノナリ

製法 硅弗化鈦ヲ同量ノ鈦ト共ニ玻管ニテ熱ス

レハ劇烈ナル作用ヲ起シ尤ノ式ノ如クニ硅素

ヲ游離ス



硅弗化鈇

鈇

弗化鈇

硅素

乃チ冷却スルヲ俟チ水ヲ以テ之ヲ処スレハ弗
化鈇ノミ熔融シテ硅素ノミヲ留ムヘシ

性質

以上ノ如ク製セル硅素ハ褐色ノ粉末ニ

シテ光澤ナシ空氣中ニテ熱スレハ燃燒シテ其
表面白色ノ硅素ヲ以テ覆ハル硫黄及ヒ塩素モ
亦之ニ作用ス強ク密閉坩堝中ニテ熱スレハ其
色濃變シテ緻密トナリ極度ノ熱ニ逢フモ熔融

セス○硅素ハ炭素ノ如ク三形ヲナス前記セル
ハ則チ無形炭素ニ對スルモノナリ八面体硅素
ハ硅素ヲ亜鉛ト共ニ熔融セル片六面形硅素ハ
鈇素ト共ニ熔融セル片ニ生ス兩種共ニ堅硬ニシ
テ能ク玻璃ヲ切断ス

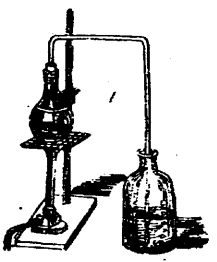
酸化硅素 硅土



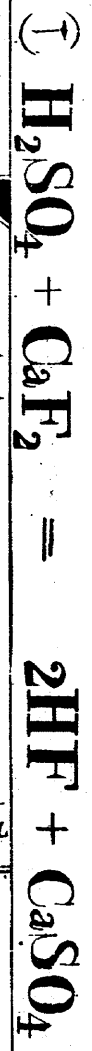
硅素ハ唯一種ノ酸化物ヲ作ル硅土是ナリ硅土
ハ廣ク地上ニ撒在ス水晶ハ其最純ナルモノニ
シテ砂燧石瑪瑙基石等ハ多少不純ナルモノナ
リ金屬ノ酸化物ト化合シテバ土壤及ヒ岩石ノ

主成分ヲナセリ長石粘土花崗石ノ如シ
 純粹ナル硅土ヲ製スルニハ先ツ水晶若クハ砂
 ヲ細末ニシテ其重量四五倍ノ炭酸錯ヲ加ヘ之
 ヲ白金坩堝ニテ熔融ス其冷却スルヲ俟テ水ト
 共ニ煮沸シ然ル後塩化水素ヲ加ヘテ乾涸ニ至
 ル迄蒸發シ塩化水素數滴ト水トヲ加フレハ不
 純物尽ク溶解シテ唯硅土ノミヲ留ム乃チ之ヲ
 遮過洗滌シ堝紅ニ熱シテ乾燥スヘシ
 第二法ハ玻璃燬ニ同量ノ弗灰石ト砂(或ハ玻璃末)
 トヲ納メ硫酸若干ヲ注加シ第四十二圖ノ如ク

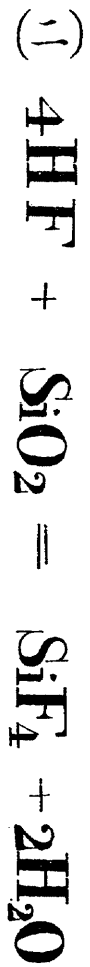
第四十二圖



曲管ヲ付シ其下端ヲ玻璃器ニ輪シ
 テ水銀ヲ加ヘ恰モ之ヲ覆フニ至
 リ上ニ水ヲ注入ス是ニ於テ玻璃燬
 ヲ熱スレハ無色ノ氣體(弗化硅素)
 ヲ生ス此氣曲管ヨリ水銀ヲ經テ
 水中ニ泡出シ忽チ分解シテ膠狀白色ノ沈澱ヲ
 生ス是レ則チ硅土ナリ蓋シ之ヲ澆過シ硅土ヲ
 洗滌乾燥スル一前法ノ如シ
 其反應尤ノ如シ



硫酸 弗灰石 弗化水素 硫酸鈷



弗化水素 硅土(砂) 弗化硅素 水



弗化水素^結 水 硅土 硅弗化水素

澆液少許ヲ取り塩化銀ヲ加フレハ白色ノ硅弗化銀ノ沈澱ヲ生ス又硝石ヲ加フレハ硅素ノ製法ニ用キタル硅弗化銀ノ白色膠狀ノ沈澱ヲ生ス

硅土ハ白色無味ノ粉末ニシテ酸水素燐ノ熱ヲ

藉ルニアラサレハ熔融セス乾燥セルモノハ水及ヒ酸類ニ溶解セス(弗化水素ヲ除ク)其比重約ソニ、六六ナリ硅酸鈹ノ稀溶液ニ塩化水素ヲ加フレハ硅素游離スルモ沈澱セス「ダイヤリシス」ヲ以テ塩化鈹ヨリ分離シ得ヘシ蓋シ該溶液ハ硅酸 H_2SiO_3 ヲ含有スルモノニシテ著ルシク酸性ヲ呈ス然レモ時ヲ經レハ硅土膠狀ノ沈澱トナリテ分出ス硅土ハ金属ノ酸化物ト化合シテ硅酸塩類ヲ生ス鈹ノ如キ「アルカリ」金属ノ塩類ヲ除クノ外皆不溶解物ナリ硅土ヲ他ノ揮發性

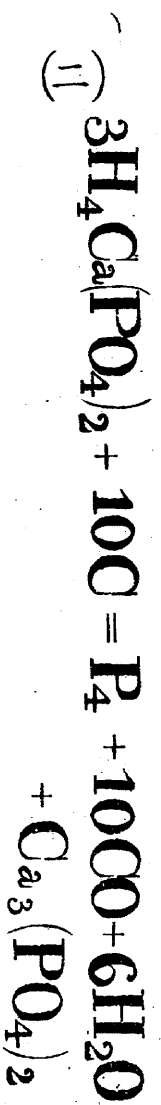
酸類ノ塩類ト共ニ熱スレハ尽ク之ヲ分解ス
 硅土ハ磁器ノ製造ニ甚タ緊要ナリ

磷素 符号 P 原子量 三一

〔歴史〕 千六百六十九年ニ於テ「ハムバルグ」ノ「
 ランド」氏之ヲ溺中ヨリ発見セリ

〔製法〕 骨灰(磷酸鈣)ヲ粉末ニシテ稀硫酸ヲ加ヘ
 放置スル「數時間」ニ至リ不溶性ナル硫酸鈣ヲ
 濾除シ濾液ヲ蒸發シテ舍利別狀トナシ木炭末
 ヲ加ヘテ更ニ乾涸シ然ル後之ヲ蒸餾シ發出ス
 ル所ノ磷ヲ水中ニ凝縮セシム其化學的變化尤

ノ如シ



〔性質〕 磷素ハ其形狀晒蠟ニ類スル柔軟ナルモ

ノナリ其比重一・七七ニシテ水素ニ比シタル蒸
 發氣ノ比重ハ六十・二トス四十四度ニ於テ熔爛
 シ二百八十度ニ於テ沸騰ス水ニ溶解セス然レ
 凡油類及ヒ二硫化炭素ニ溶解ス甚タ發火シ易

シ時トシテハ指頭ノ熱ニテ燃燒スルヲアリ故
 ニ之ヲ処スルヤ充分ノ注意ヲ要ス空氣ニ曝露
 スレハ徐々酸化シテ白烟ヲ發ス蓋シ暗処ニ於
 テ之ヲ見レハ光アリ空氣中ニテハ光輝アル焰
 ヲ發シテ燃燒シ五酸化磷ヲ生ス水中ニ熔融シ
 テ酸素ヲ壓入スレハ燃燒ス

磷ヲ二酸化炭素中ニ置キ二百四十度乃至二百
 五十度ニ熱スレハ次第ニ赤變シテ二硫化炭素
 ニ溶解セサルモノトナル之ヲ無形磷或ハ赤色
 磷ト云フ即チ赤褐色ノ不溶性物ニシテ尋常ノ

磷ノ如ク空氣中ニテ酸化セス故ニ摺附木製造
 ニ欠クヘカラス二百六十度ニ熱スレハ尋常ノ
 磷ニ複ス

磷ノ酸化物

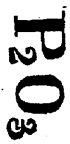
磷ニ二種ノ酸化物アリ其組成尤ノ如シ

符号

磷素

酸素

三酸化磷



重量

六二分

四八分

五酸化



六二分

八分

以上二種ノ酸化物ハ各水及ヒ金屬ノ酸化物ト
 化合シテ亜磷酸及ヒ磷酸塩類ヲ生ス此外次亜

燐酸 (H_3PO_2) 下云フ酸アレヒ之ニ對スルノ酸化物ナシ

三酸化燐 亜酸化燐 $[P_2O_3]$ 三酸化燐ハ空氣中ニテ

徐々燃焼スル片ニ生ス其性狀タルヤ白色ノ粉末ニシテ水ニ逢ヘハ亜燐酸 H_3PO_3 即チ $3H_2OP_3O_3$ 生ス

亜燐酸ヲ製スルニハ三塩化燐ニ水ヲ加ヘ之ヲ舍利別狀ニ煮込テ之ヲ結晶セシムルヲ便トス



亜燐酸ハ溶化シ易ク酸素ヲ吸引シテ燐酸ニ變

ス

五酸化燐 酸化燐 $[PO_5]$ 乾燥セル空氣ヲ玻璃

瓶入シ其内ニテ燐ヲ燒ケハ雪様ノ酸化燐ヲ生ス此酸化物ノ水ト化合スルカハ彼三酸化硫黃ヨリ強烈ナリ空氣ニ曝露スルノ須臾ナルモ忽チ溶化シテ液体ニ變ス水ニ投スレハ曝鳴シテ之ト化合シ燐酸ヲ生ス

燐酸ハ五酸化燐ノ水三分子ト化合シタルモノニシテ H_3PO_4 ノ符号ヲ有ス即チ煮沸セル所ノ硝酸ニ燐ノ小片ヲ投シ其全ク溶解スルヲ俟チ

之ヲ蒸発スレハ無色ノ液体トナリテ生ス磷酸
 中ノ水素一原子二原子或ハ三原子ヲ金属ニテ
 交換シ得ヘシ其例左ノ如シ



以上ノ磷酸及ヒ其塩類ニ硝酸銀ヲ加フレハ黄
 色ノ磷酸銀 (Ag_3PO_4) ヲ沈澱シ又「アムモニヤ」及
 ヒ硫酸鎂ヲ加フレハ白色晶形ノ磷酸鎂「アムモ

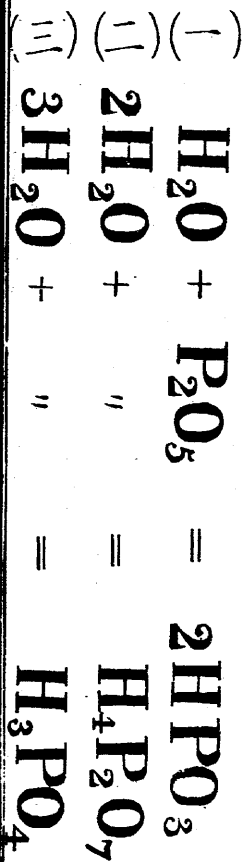
ニウム」ノ沈澱ヲ生ス $[NH_4MgPO_4]$ 又錳酸「アムモニ
 ユム」ト硝酸トヲ加ヘテ熱スレハ黄色ノ沈澱ヲ
 生ス

今磷酸ヲ二百十度ニ熱スレハ水ヲ游離シテ晶
 状ノ塊ヲ生ス



之ヲ火性磷酸ト云フ其水素一部分或ハ全四原
 子ハ金属ヲ以テ交換シ得ヘシ此磷酸ニ硝酸銀
 ヲ加フレハ白色ノ火性磷酸銀 $(Ag_4P_2O_7)$ ヲ沈澱
 ス

磷酸ヲ煮込テ之ヲ白金碟ニテ熱灼スレハ透明ナル氷状ノ塊ヲ生ス是レ第三種ノ磷酸ニテ異性磷酸ト稱シ HPO_3 ノ符号ヲ有ス然レ此之ヲ水ト共ニ煮沸スレハ再ヒ通常ノ磷酸ニ復ス此磷酸ハ硝酸銀ヲ加フレハ膠状ノ異性磷酸銀ヲ沈澱スルヲ以テ他ヨリ區別シ得ヘシ (Ag_3PO_3) 以上三種ノ磷酸ノ關係則チ左ノ如シ



水素ト磷トノ化合物

磷化水素 PH_3 ヲ製スルニ二法アリ

(一) 亜磷酸ヲ熱スレハ生ス



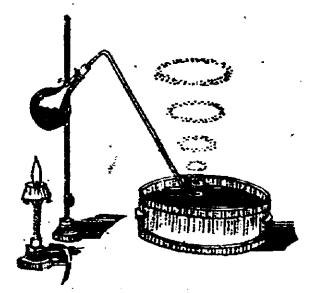
(二) 苛性「ボタシ」或ハ苛性「ソーダ」或ハ石灰ヲ磷ト共ニ熱スレハ生ス



磷化水素ハ無色ノ氣體ニシテ蒜臭アリ火ヲ点スレハ光輝アル黄色ノ焰ヲ発シテ燃燒ス第二法ニ製シタルモノハ空氣ニ觸レ自ラ火ヲ発ス

蓋シ液体ナル磷化物 PH_3 ノ混在スルニ由ル故
 ニ之ヲ水上ニ放置スルニ數時間ニ至レハ二磷
 化四水素凝縮シテ空氣ニ出ルモ發火セス
 磷ノ小片兩三箇ヲ「レトルト」ニ納メ苛性「ポタシ
 ノ溶液少許ヲ加ヘ第四十三圖ノ如ク導管ヲ挿
 入シテ之ヲ水中ニ導キ然ル後

圖三十四第



「イーサル」數滴ヲ加ヘ文火ニテ
 熱スレハ磷化水素水面ヨリ泡
 出シ空氣ニ觸ル、ヤ否忽チ發
 火シ生スル所ノ五酸化磷ハ旋

轉スル白色ノ輪ヲナシテ上騰ス
 世俗ニ傳話スル所ノ幽靈火ナト云フモノハ多
 クハ此類ナリ

磷及ヒ塩素ノ化合物

磷ハ其組成酸化物ニ等シキ二種ノ塩化物ヲ作
 ル即チ三塩化磷及ヒ五塩化磷ナリ

三塩化磷 POI_3 ハ乾燥ナル塩素氣中ニテ徐々
 磷ヲ熱スレハ則チ生スルモノニシテ無色ノ液
 体ナリ空氣ニ觸ルレハ發烟シ劇烈ナル臭氣ヲ
 有ス其比重一四五ナリ水ニ投スレハ沈没シ徐

210.4

々分解シテ亜磷酸ト塩化水素トヲ生ス
 五塩化磷(POI_5)ハ塩素ヲ三塩化磷中ニ通シ或
 ハ塩素ノ過量中ニテ磷ヲ熱スレハ生ス此塩化
 物ハ晶狀ノ固体ニシテ水ニ觸ルレハ分解シテ
 塩化水素ト磷酸トヲ生ス
 磷ノ塩化物ハ他物ヲ塩化セシムルニ要用ナル
 モノニシテ有機化學ノ研究ニ欠クベカラス
 中學化學書第一編卷之下終

明治十六年二月八日版權免許
 同年二月出版

定價 拾錢

編述人

福岡縣士族

磯野徳三郎

後

神田區小川町
壹番地

東京府平民

出版人

鹽島一介



出版人

日本橋區吉川町
六番地

中學化學書

磯野德三郎編述

第二編 卷之上

391

71
271

大日本教育協會館

一	三
九册	五函
號	架

新書部

K110,462
18
2